

「三豊市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」（素案）パブリックコメントにおける提出意見及び回答について

◆実施期間

令和5年12月20日（水）～令和6年1月19日（金）

◆意見の募集結果

提出者数 2名（メール1名、持参1名） 意見件数 10件

※いただいたご意見については、趣旨を損なわない範囲で要約させていただきます。

番号	掲載箇所	意見	回答
1	21～22ページ 33ページ	<p>【高齢者のフレイル予防対策】 前回調査と比べて高齢者の活動機会が減少している。市としてボランティアやスポーツなどを通じて、フレイル予防対策をする。高齢者や障がい者などあらゆる住民が参加する総合スポーツクラブ化を目標とする。</p>	<p>ご指摘のとおり、コロナ禍の影響により、高齢者の活動機会が減少しました。高齢期前からのフレイル予防は健康寿命の延伸に向けて重要な取り組みです。 「三豊市スポーツ推進計画」と整合を図りながら、高齢者スポーツの推進について、スポーツ振興課などと連携した取り組みを検討してまいります。</p>
2	23ページ	<p>【地域包括支援センターの認知度】 地域包括支援センターの認知度が低く、相談窓口として認識されていない。（そのような人はいない）の割合を減らし、地域包括支援センターや社会福祉協議会の割合の増加が望まれる。</p>	<p>ご指摘のとおり、地域包括支援センターの認知度が前回調査に比べ、減少していることは承知しております。 P49・50のとおり、認知度向上に向けてわかりやすい名称の検討や相談しやすい体制づくりに努めてまいります。</p>
3	30ページ	<p>【専門職チームによる住環境問題の検討】 相談者の自宅や施設等を理学療法士・建築士・保健師のチームで訪問して、住環境の問題を検討する。各専門職が一緒に動くことで、問題解決を迅速に解決できる。かがわ総合リハビリセンター内くらし快適館や障がい者の住環境に関するNPO団体等と業務協力を図り、活動する。</p>	<p>現在、住環境に関する相談があったとき、市の保健師や理学療法士がケアマネジャーと協力して問題解決に取り組んでいます。また必要に応じて、ご指摘の団体と連携して課題解決を図ってまいります。</p>
4	53ページ 13～16行目	<p>【県との連携】 介護保険の住宅改修制度の周知・利用促進や高齢者施設の適切な整備・利用促進について、香川県と連携⇒介護保険制度に精通して福祉用具や住宅改修相談を理学療法士や作業療法士、社会福祉士等が行っている、くらし快適館（かがわ総合リハビリセンター内、香川県委託事業）や香川県住宅課・健康福祉総務課と積極的に業務連携を図る必要がある。訪問活動もしており、実際に現地を訪問してアドバイスをする活動を県下で広く行っている。</p>	<p>介護保険の住宅改修制度については、これまでもケアマネジャー研修において情報提供していますが、必要な高齢者が住宅改修制度を利用できるよう更なる周知に努めるとともに、必要に応じて県や関係機関と連携して課題解決を図ってまいります。</p>
5	54ページ 19～21行目	<p>【出前講座の活動頻度の増加】 出前講座の周知と開催の強化に努めます ⇒現在よりも活動頻度を増やし、定期的に全高齢者を対象に活動を届けるべき。通いの場に出て来ない高齢者こそ、虚弱のリスクを抱えている。リハビリセンターの出前講座など、専門職による講座やスポーツを通じて活動を提供する。</p>	<p>コロナ禍後、出前講座の利用は増加していますが、ご指摘のとおり、通いの場に来ていない高齢者への働きかけは重要です。出前講座等の活動を広報でわかりやすく周知するとともに、民生委員やサロン等を通じて、地域の高齢者へ積極的に情報提供してまいります。</p>
6	55ページ 9～10行目	<p>【高齢者のフレイル対策に向けた理学療法士の積極的活用】 高齢者のフレイル対策に精通しているのは理学療法士であり、積極的に活用するべき。</p>	<p>ご指摘のとおり、理学療法士はフレイル対策に精通していることから、本市の地域包括支援センターでは、理学療法士を職員採用しており、介護予防教室等のフレイル対策に積極的に従事しております。</p>

番号	掲載箇所	意見	回答
7	63ページ	<p>【外国人介護人材について】</p> <p>介護人材を外国人に頼る事を前提としていることに反対します。</p> <p>彼等の将来の姿をどう考えているのでしょうか。彼等の社会保障の国民負担は？一定の年数で確実に帰国して貰えるのか？帰化永住を希望された場合は、どうするのか？在留した外国人がコロニーを作り治外法権的な地域が問題になっている自治体が増えています。</p> <p>また彼らの幸せも考えなければなりません。目の先だけ見て単純に外国人労働者受け入れを論じてはいけません。双方の将来像をしっかりと見据えて貰いたいものです。</p>	<p>ご存知のように、介護人材不足は喫緊の課題となっています。</p> <p>地域に潜在している介護職員の掘り起こしとともに、外国人介護人材の活用を含めて、事業者と連携して取り組んでまいります。</p>
8	54ページ	<p>【介護予防・健康づくり施策の充実・推進について】</p> <p>医療費削減には最後まで健康であることが第一です。</p> <p>そのための施設がまったく足りません。売店などがある観光地としてではなく、地域に大きな公園と安全に歩ける広い歩道を整備すること、軽い山登りハイキングを楽しめる山道を整備することです。</p> <p>地方であるのに都会より自然散策ができる環境が少ないのは残念です。高齢者のみならず、市民の健康促進を進めることが肝要だと思います。</p>	<p>ご指摘のとおり、市民が生涯に渡り健康を維持するために身近な自然に親しみ楽しんで健康増進できる環境整備は重要です。本市においては、安全に散歩ができる大きな公園や自然歩道の既存資源は充実しており、市民に活用されているところです。</p> <p>今後もその情報発信について、関係各課と連携・協力し、利用促進に努めてまいります。</p> <p>また、多世代交流は高齢者の介護予防の面からも重要です。P56のとおり高齢者と子どもが接する機会を創出し、多世代交流の促進を図ってまいります。</p>
9	56ページ	<p>【高齢者の社会参加と生きがいづくりについて】</p> <p>8の続きになりますが、移住して長年続けてきたスポーツを施設が市にも県にもないため、続けることができなくなりました。</p> <p>市は、移住者に期待しているようですが、それはまったく間違いです。人はそれぞれの理由があって移住しているのだから、移住者の思いは千差万別です。地域貢献を目指して移住してくる人もおられると思いますが、大抵の方は、逆に三豊市に期待しているのだと思います。</p> <p>私は長年続けてきたスポーツができなくなったことが非常に残念です。図書館を母親が子供と楽しく過ごせる設備に改良することで来館する高齢者との交流もできるでしょう。老若男女、住民の交流が自然にできる施策を考えてもらいたい。</p>	
10		<p>【まとめ】</p> <p>三豊市の市政は、住民の方を向いた市政でないことを強く感じています。決まった薬と定期検査だけでよい病状の患者に毎月通院することを強制する医師会に屈しては、医療費が無駄になるだけではなく、患者の時間と労力の負担も大きいです。他課との連携を深め、より良い政策を期待しています。</p>	<p>適切な医療とは、医師と患者との話し合いで決まるものと考えます。いただきましたご意見については、医療担当課と情報共有させていただきます。</p>